つながろう
CO-OPアクション情報
2012年8月29日
第20号

全国の生協キャラクター、福島に集合

福島の子どもたちに元気と笑顔をプレゼント

全国の着ぐるみ大集合。パルちゃん（おおさかパルコープ）、こんせんくん（パルシステム）、ほぺたん（コープネット事業連合）、マットくん・たまねちゃん（コープぎふ）、アップルちゃん（エフコープ・福岡）、たんぽぽちゃん（福井県民生協）、とれたてトマトくん（ユーコープおうち CO-OP 宅配事業）などが参加。

8月4、5日、あずま総合運動体育館（福島市）で「ふくしまキッズ博」が開催され、3万6,000人が来場しました。これは、福島市内の官民学が一体となって遊び場を提供し、「元気」と「笑顔」をプレゼントしようと開かれた催しで、コープふくしま、パルシステム福島も参加しました。

生協のお仕事体験コーナーでは、2日間で約500人の子どもたちが体験。

イベントでは、福島を元気にするための企画として、「ギネスに挑戦！」（福島北ロータリー主催）と称し、丸餅を使ってモザイク画を作るイベントが行なわれたり（見事世界記録達成、ギネスに申請予定）、巨大プレイコーナー、大学生による創作遊びコーナーなど、盛りだくさんの催しが並びました。これらの企画は、普段遊ぶ場所を制限されている子どもたちに、のびのび遊べる場所をつくってあげたい、との意図で実施されたものです。

コープふくしまのブースでは、配達車両を使っての生協のお仕事体験や、交通安全教室、バルーンパフォーマンスショーなどが企画され、会場の子どもたちに大人気でした。また、コープふくしまから「全国の生協の着ぐるみキャラクターと子どもたちがふれあう企画を行ないたい」と要請があり、全国の生協から着ぐるみが集合。

岐阜県から参加した大坪光樹さん（コープぎふ）は、「子どもたちの笑顔に、来て良かったなと思いました。福島は大変な状況が続いていると聞いていたので、たくさん人が集まり、うれしかったですね」と感想を話してくれました。

学習室で女性パイロットの一人から飛行機の操縦などについて話を聞く子どもたち。

大きな機体を目の前にし、思わず歓声を上げる子どもたち。

「周りの人に感謝する、仲間をつくり友達をつくる、集団行動を大切にする」の3つを守ることを出発前に約束し、子どもたちはツアーにのぞんだ。

震災を乗り越える力をつけよう
～みやぎの子どもたちに、「生きる力」を～

8月4～6日、「みやぎの子どもたち『生きる力（思い出づくり）』体験学習」小学生のコース※に140人の子どもたちが参加しました。これは、みやぎ生協が取り組む、県内被災地域の子どもたちへの支援企画です。小学生のコースでは、東京ディズニーランドを楽しみ、羽田空港にあるANA（全日本空輸）機体メンテナンスセンター（整備場）を見学しました。同コースは8月中に4日程組まれ、総計572人の児童が参加しました。

※中学生コースは、北海道にて別プログラムが行なわれました。

震災を乗り越える力をつけてほしい

この企画は、みやぎ生協学校部によって提案され、実施が決まったものです。この体験学習の団長を務める、みやぎ生協学校部の小野英男さんは、「震災以来1年4カ月が過ぎました。私どもみやぎ生協学校部は昨年度、被災した子どもたちに学校で使用する教材などの支援をしました。2012年度になり、今後はどのようなことが必要かを考えたとき、いまだに精神的ストレスを抱えている子どもたちは少なくなく、心のケアを重点的に行なっていく必要があるだろうという結論になりました。今年度は子どもたちに夢や希望を与えて、『よし頑張ろう、さらに頑張って、みんなで乗り越えていこう』という気持ちになる支援をしよう、と今回の企画を組み立てたのです」と話します。

実施が決まり、教育委員会を通じて宮城県内に案内をしたところ、1万6,000人を超える応募がありました。費用は宮城県の生協組合員と全国の生協からの支援で賄われ、参加費は無料です。

プロの話に目をきらきらさせて

体験学習は、遊びや見学といった「楽しさ」だけでなく、専門的な職場で働いている人々の苦労や小さい頃の夢を学ぶことで、「生きる力の糧づくり」となるように組み立てられました。

「一度に140人が見学するというのは厳しい状況でしたが、ANAさんには企画の主旨をご理解いただき、特別に許可をいただきました」（小野さん）

ANA機体メンテナンスセンターで子どもたちは、学習室での学習や整備工場の見学を行ない、積極的にパイロットやキャビン・アテンダントに質問をしました。

「どうして難しい操縦士になれたのですか」と聞かれたパイロットが「子どもの頃から操縦士になりたいと夢を持ち続けたからです」という答えに、質問した子どもは大きくうなずいていました。キャビン・アテンダントへは、「何歳になったら、辞めさせられるんですか」などといった質問も飛び出し、会場は爆笑に包まれました。ちなみに、答えは、「定年まで働けますよ」でした。

参加者の櫻井翔輝くんは、「重い鞄を持つパイロットは筋肉があって操縦もできるので、器用で力強いと思いました。整備士の話を聞いて、飛ぶためにいろんな工夫があってすごいと思いました。ディズニーランドは楽しく、整備場見学は勉強になったので来てよかったです」と笑顔で帰路につきました。

子ども同士で生き生き交流 ～岩手＆石川

支援のつながりを次世代にまでつなげたい

コープいしかわ本部の裏にある農園で行なわれた食育イベント「サタデーとうもろこし」に参加。生とうもろこしをガブリ！

岩手県陸前高田市への継続した復興支援ボランティア活動を行なってきたコープいしかわ。7月27～30日には、陸前高田市の児童を石川県内に招待しました。陸前高田市の小学5～6年生の児童19人が、石川県の同学年の児童22人と楽しいひとときを過ごしました。

企画のねらいは、「被災地の児童が、石川県内の児童と交流を通して楽しい思い出をたくさん作ってほしい」というもの。組合員理事の奥迫敦子さんは、「コープいしかわは、今年度もボランティアバスを運行していますが、今回の企画もこれまでの交流を次世代にまでつなげたいという思いがあります」と企画意図について語ります。

27日に陸前高田市を出発した岩手県の子どもたちは、28日、石川県の子どもたちと初めて顔を合わせ、とうもろこしの収穫体験、昼食にはバーベキューを楽しみながら交流し、午後は和菓子づくり体験、金沢21世紀美術館見学などを行ないました。

「みんなとはすぐ仲良くなれたので、金沢の良いところを陸前高田の友達に教えてあげたい」と話すのは、金沢市内から参加した竹本歩美さん。

20人参加した組合員ボランティアの一人、岡野淳子さんは、「震災を忘れないように、子どもには津波の被害に遭った子どもたちが来るんだよと話してあります。今回は、少しでも被災地の子どもたちの気晴らしに役立てたらいいなと思って参加しました」と話していました。

子ども同士で生き生き交流 ～福島＆三重

はじける笑顔が島に広がった

親子共に参加できる保養企画は、好評だった。

7月29日～8月1日、コープみえ主催の企画「福島の子どもたちと友達になろう」が、三重県鳥羽市の離島の一つ・答志島（とうしじま）で行なわれました。三重県の子どもたちと、福島の子どもたちが、初対面に関わらず楽しい時間を過ごし、また、保護者にものんびりとした時間を提供しました。

島では、島の子どもたちと福島、三重の子どもたちで7～8人のグループを作り、スタンプラリーが行なわれました。指定された「サンデの底」や「西湖の井戸」を探し、「サンデ」の意味や井戸の水質に関するクイズに答えていきます。クイズの答えは地元の方に聞いてもいいので、通りがかったおばあさんに話しかけて教えていただくなど、地元の方との交流もありました。ちなみにサンデとは、島の言葉でサザエの意味です。

ゲームや海水浴やらに熱中する子どもたちを横目に、砂浜ではお母さんたちが日陰でのんびり。「子どもたちが外で遊ぶことを含め、当たり前だったことがすべて当たり前でなくなってしまいました。『公園に行っちゃダメ』というのも辛いです。ここは何も心配いらないのでほっとしますね」と、安心した表情で、同じ気持ちを持つお母さんたちと時間を過ごしていました。

「海は2年ぶり。とっても楽しい」と笑顔の横山祐人くん。子どもたちは、初めて会った同士とは思えないほど互いに打ち解け、笑い声が島中に広がりました。

福島の子どもたち、遊びにおいで！

福島の子どもたちに、のびのび遊んでもらおうという「福島の子ども保養プロジェクト（コヨット！）」。全国の生協が企画し、子どもたちを招きました。

福島の子ども保養プロジェクト in 新潟 ～思いきり自然と遊ぼう！～「五頭連峰少年自然の家 3 日間」（7 月 26 ～ 28 日：新潟県生協連）

（担当者より）福島在住および、福島から新潟に避難している小学生を対象に、自然とふれあいながら楽しんで、お互いの心の通い合いに役立てればと企画しました。参加した 31 人の子どもたちは、しめ飾り作りや色々なゲームで交流していました。3 日目、子どもたちは仲良くなった友達とのお別れがチョット寂しかったようです。

福島の子ども保養プロジェクト in 富山「富山県氷見市で日本海の夏の海を楽しもう」（7 月 28 ～ 30 日：富山県生協連）

（担当者より）「日本海の夏の海を楽しもう！」という、親子がリフレッシュできる交流を企画しました。参加した福島県内 4 家族 16 人は、海水浴、魚釣り、地引き網、海岸での花火などを楽しみました。「久しぶりに長時間思いっきり楽しく遊びました」という声や、終わりの式での「富山は最高！」という子どもの感想に感激しました。

福島の子ども保養プロジェクト in 神戸「神戸・よしまキャンプ」（7 月 29 日～ 8 月 2 日：コープこうべ）

（担当者より）コープこうべは神戸 YMCA、兵庫県ユニセフ協会と協同で、福島県内に住む小学 4 ～ 6 年生 30 人（男子 22 人、女子 8 人）を香川県小豆島近くの無人島、余島にある「神戸 YMCA 余島野外活動センター」に招待。海水浴・カヌー・アーチェリー・海釣りなどといった野外活動でのびのび遊び、元気いっぱいに過ごしました。

福島の子ども保養プロジェクト in 関西「かんさい」（7月31日～8月5日：奈良県生協連、コープしが、ならコープ、大阪府生協連）

（奈良県の担当者より）福島の子どもたちに、のびのび遊んでもらおうと、コープしが、ならコープ、奈良県生協連、大阪府生協連が協力して企画を実施しました。49 人の子どもたちが参加し、滋賀、奈良、大阪を回り、夏休みの 6 日間を関西で過ごしました。

奈良では、県立野外活動センターで、カレーや焼きそばをお腹一杯食べ、キャンプファイヤーを楽しみました。翌日はフィールドアスレチックで体を動かし、大和郡山名物の金魚すくいも楽しみました。奈良公園では多くの鹿に圧倒されながらも、初めて見る鹿と楽しく遊びました。

福島の子ども保養プロジェクト in 秋田「親子で行く秋田なまはげツアー」（8 月 1 ～ 3 日：コープあきた）

（担当者より）秋田の自然と文化に触れてもらおうと、「男鹿の海となまはげ」をテーマに企画しました。秋田の子どもたちにとって“なまはげ”はとても怖い存在ですが、実物が登場すると、とても喜んで記念撮影するなど、福島の子どもたちには大人気でした。

福島の子ども保養プロジェクト in あおもり「コープあおもり　ねぶたツアー」（8 月 2 ～ 3 日：コープあおもり）

（担当者より）青森の郷土文化に触れてもらおうと、「青森ねぶたツアー」を企画しました。ツアーに参加した子どもたちは、生協ねぶたのハネトとして参加！おはやしが流れ始めると「ラッセラ～ラッセラ～」と地元の人たちに混じって大声を出して跳ねて楽しみました。「見るだけでなく、衣装を着てハネトとして参加でき貴重な体験ができた！」と参加された親子は大変喜んでいました。翌日は、浅虫海岸で海水浴、スイカ割りも行ないました。

次号予告　上記以外に開催されました企画は、次号でご紹介いたします。

お買い物バスのコースは、9コース。
宮古市では、4コースで運行。

滞在時間は長すぎず、短すぎずちょうどよい。マリンコープ DORA では 70 分間、ベルフ西町では 50 分間。店舗の規模に合わせている。

車がないから助かります
～無料お買い物バスの運行開始

7月9日、いわて生協は沿岸被災地の住民と宮古市内の2店舗（マリンコープDORAとベルフ西町）を結ぶ「無料お買い物バス」の運行をスタートしました。

さまざまな配慮でコース設定

いわて生協は6月18日から移動店舗「にこちゃん号」（詳細は、本誌18号参照）を運行していますが、それだけでは対応できない仮設住宅が数多くあり、無料で乗降できる「無料お買い物バス」を7月9日からスタートしました。

コースは全部で9つ設定され、これにより宮古市・山田町の仮設住宅64カ所（2,078世帯）をカバーすることが可能になりました。さらに、仮設住宅だけでなく、その周辺にお住まいの被災地住民も利用できるようにコースを設定し、停留所を設けて事前告知を行ないました。

いわて生協・常務理事の阿部慎二さんは、「仮設住宅にお住まいの方々と、その周辺でもともと暮らしていた方々との間で、ふれあう時間があまりないと聞いています。ならば、いわて生協が運行するバスで隣り合わせに座ったり、行き先の店舗で一緒に買い物をするような時間があると、コミュニケーションが深まるのではないかと考えました。また、『お買い物バス』を無秩序に走らせて復興途上にある店舗の経営を圧迫しないように、コース設定も考えました」と話していました。

運行前、告知にも力を入れた。

無料で、ありがたいです

買い物を終えてバスに戻ってきた方々に話を聞くと、「車を持っていないから、本当に助かります」という好意的な意見ばかりでした。「山田町からはバスでも片道700～800円かかります。往復すると1,500～1,600円。個人の負担は大きいでしょうね」（阿部常務）。

「無料お買い物バス」の運行は、2013年3月末までを予定しています。4月以降の運行をどうするかは利用状況を見て判断するそうです。3月末までの運行に関する費用は日本生協連が全額負担しました。

阿部常務は、「東日本大震災以降、生協が持つ大きな力を実感しています。緊急支援はもちろんのこと、復興支援として『にこちゃん号』と『無料お買い物バス』を続けてスタートできたのは、全国の生協と職員、組合員さんの助けがあったからこそ。生協という組織は本当に心強いですね」と語っていました。

※ 移動店舗「にこちゃん号」と「無料お買い物バス」をそれぞれ1台ずつ運行していても、面積が広い岩手県では、被災地をカバーできません。そのため、いわて生協では、「にこちゃん号」を増やすことを検討しており、現在、そのための募金も始めています。詳細は、本誌最終ページ「支援募集情報　いわて生協」を参照。

移動店舗「にこちゃん号」。

地域コミュニティー再生に、生協の力を

コープあいちの組合員22人、職員11人は、岩手県陸前高田市で8月7日に行なわれた「うごく七夕まつり」に参加しました。コープあいちでは、準備の段階から祭りに関わり、何度も現地へ足を運び、当日を迎えました。大阪いずみ市民生協からも当日ボランティアが14人参加し、祭りを盛り立てました。

コープあいちの組合員も参加した「うごく七夕まつり」の様子。

毎年開催される陸前高田市の「うごく七夕まつり」は、800年以上の歴史があるといわれています。

しかし、住民の多くが被災してしまったため、祭りの担い手が足りません。そこで、コープあいちでは、準備の段階から、何度も現地に足を運び、祭りの運営に協力してきました。当日は、大阪いずみ市民生協などとも協力し、炊き出しなどを行ないました。

コープあいち東日本被災地支援担当の岩本隆憲さんは、「山車の飾り付けや祭囃子の練習など、お祭りの準備には時間がかかり、また、それぞれの人に役割が与えられています。実はその準備の中にこそ、地域のつながりを深める大きな力があることに気付かされました。あいちからの参加者は皆、地域の方と一緒に祭りを楽しんでいました。生協は、一人ひとりの組合員の思いや願いが、まとまった力となって発展してきました。被災地でも、個と個の思いがつながり、まとまる力へ発展していこうとしています。こうした流れの中で、生協ができることはたくさんあるのかもしれません」と話していました。

宅配のセンターで、復興夏祭り開催

震災から1年5カ月目の8月11日、石巻市開成地区にあるみやぎ生協石巻支部で「復興夏祭り」が開催され、多くの人でにぎわいました。

地元のサッカーチーム「ベガルタ仙台」のチアリーディングの演技指導など、盛り上がるイベントが盛りだくさん。

開成地区には、7月1日現在、14の仮設住宅が建ち、1,412戸、2,902人の方が暮らしています。

「復興祭り」当日は、周辺の仮設住宅に住む方々をはじめ、地域の組合員や職員らが大勢集まり、ステージで繰り広げられるパフォーマンスや屋台コーナーでの買い物、人形すくいゲームなど、楽しい1日を過ごしていました。

ステージでは、みやぎ生協職員の誘いで参加が決まった「女川潮騒太鼓轟会」の復興太鼓が演奏されたり、元みやぎ生協職員でシンガーソングライターの砂野博明さんが熱唱したりしました。また、元みやぎ生協地域理事の遠藤信子さんが事務局を務める「牡鹿エコたわし工房海だより」が作成したエコたわしの販売があったりなど大賑わいでした。

「今回の夏祭りの特徴は、出演者や出店者の多くが支部や職員のつながりで参加していること」と石巻支部支部長の斉藤則男さんは言い、次の言葉を継ぎます。「復興中の石巻はいま、一度散り散りになった地域が仮設住宅で一緒になったり、また離れたりしている状態にあります。生協が、人と人の縁を通じて、そうした地域の輪をつなぎとめることもできるのではないかと思っています」

ポータルサイト 第１回バスボランティア開催（福井県民生協）

牡鹿半島の狐崎浜では、がれき撤去ボランティアを行なった。
発泡スチロールが多く、細かくちぎりながら、作業を行なう。

福井県民生協では、６月 22 ～ 25 日、被災地支援のボランティアバスを企画運営してきた福井の NPO「未来ビレッジ JAPAN」との共催で、宮城県石巻へのバスボランティアを実施。職員・組合員 27 人が参加しました。第２回は、「未来ビレッジ JAPAN」と共に、９月 21 ～ 24 日に開催する予定です。

ポータルサイト おまんじゅうを、みんなで作ろう（パルシステム埼玉）

パルシステム埼玉は、６月 27 日、福島県双葉町から埼玉県加須市の旧騎西高校へ避難している方たちと組合員との交流を目的に、「味噌まんじゅう作り」講習会を開催しました。講師は、双葉町で約 70 年和菓子店を営んできた森正夫さんです。作業後は、避難されている方が双葉町の家庭料理をふるまい、話が弾んでいました。

味噌まんじゅうは、森さんのお店の名物のお菓子。
参加者たちは、慣れない作業に苦戦しながらも、
森さんの指導のもと、楽しく作っていた。

ポータルサイト 日本一暑い町のお菓子をお贈りしました（コープぎふ）

コープぎふが行なっている行政訪問で、多治見市の古川市長に
面会した際、「そのようなすてきな活動でしたら、ぜひ!」と、
多治見市のマスコットキャラクターのグッズなどをいただいた。

コープぎふでは、岐阜県の代表的なお菓子をみやぎ生協の「ふれあい喫茶」にお届けしています。８月３日には、日本一暑い町として全国的にも有名となった多治見市の「多治見さくさくクッキー」を贈りました。活動に賛同した多治見市から、うちわや風鈴などの提供もあり、市長のメッセージも添えてお送りしました。

コラム No.4 「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に行き、見たもの、感じたものを、お伝えしていきます。

生協プロデュースによる、福島の子どもたちに県外で過ごしてもらうプロジェクトが好評だ。正直、当初は「数日くらい福島を離れてもなあ」と思っていたが、効果は絶大。子どもたちのはしゃぎっぷりに大人の方が癒される。「子どものあんな笑顔は久しぶりに見ました」。親子参加のプロジェクトで取材したお母さんが明かした。行政、専門家、そして身内の意見までもが交錯し、混乱しているのだという。「放射能は危ない。すぐに引っ越せ」「大丈夫だ。問題ない」「外で遊ばせるな」「遊ばせなくてはダメだ」――どうしていいか分からない。「ひとときでも福島を離れ、のんびりできて本当によかった」と笑顔を見せた。

今から海岸で、スイカ割り！

子どもたちが日差しの下で遊ぶのは当たり前のことなのに、それすらかなわない現実に、被災地から離れた私たちがどのように関わっていけるのか。「宿題」と格闘する日々が続く。ロンドン五輪では、多くのトップアスリートが「被災地の皆さんのためにメダルを」とコメントした。自分ができる最善のことをしたい。その気持ちはしっかり伝わっていると思う。

●京都南部豪雨に対する生協の取り組み

宇治市災害ボランティア
センターの活動の様子。

8 月 13 ～ 14 日にかけての京都府南部地域での大雨により、宇治市をはじめ各所で大きな被害が発生。死者・行方不明者 2 人、浸水などの被害を受けた住宅は約 2,340 棟にものぼりました（8 月 17 日現在、京都府災害警戒本部発表）。8 月 18 日午後には、再び大雨に見舞われ、8 月 14 日に河川決壊のあった地域が再度浸水するなどの被害がありました。

この豪雨により、京都生協・コープ東宇治店も浸水し、臨時休業を余儀なくされました。また、組合員や職員の自宅も、浸水等の被害を受けました。

京都府生協連は、京都府災害ボランティアセンターの運営委員団体として積極的に支援活動を行ないました。同時に、近隣生協などにもボランティア募集を呼び掛け、8 月 26 日までに延べ 2,500 人を超えるボランティアが、泥出し・家内外の清掃・畳上げなどを行ないました。今後も支援が必要な地域があり、京都府生協連は生活支援の活動をすすめていく予定です。

支援募集情報

○いわて生協：

・被災地ツアー（観光を含んでも可能）、被災地ボランティアツアーの企画・実施

・被災地のお母さんたちや福祉作業所などの復興応援商品の販売協力（宅配以外のイベント等での取り扱い協力など）

・被災メーカーの商品や復興応援ギフトなどの店舗・宅配での販売協力

・中小仮設住宅の支援

連絡先は、いわて生協組織本部・小野寺 真さん（019-603-8299　月～土　9:00 ～ 18:00）まで。

・「移動店舗車両購入支援募金」ご協力のお願い

新着 被災地への移動店舗車両を増やすため、募金をお願いいたします。6 月から宮古市内で開始した移動店舗「にこちゃん号」（1 台）は多くの方から感謝の声をいただくとともに、他の地域からは「早く実施してほしい」という切実な声がたくさん寄せられています。7 市町村に点在する 315 の仮設住宅と、住宅は残っても買い物が不便な地域を回るには、最低でも 6 台は必要です。1 台 1,200 万円を目標に募金を実施中です。ぜひご協力をお願いいたします。

連絡先は、いわて生協組織本部管掌理事・金子成子さん（019-603-8299）まで。

○みやぎ生協：

・「みやぎの子どもたち生きる力（思い出づくり）支援」プロジェクト実施のため、募金をお願いいたします。

被災し、心理的ストレスを受けた子どもたちが「生きる力」をつけるため、さまざまな方のお話を聞いたり、体験したりするツアーを組み、子どもたちの未来に夢と希望を与えます。実施には 3,000 万円の費用が必要です。ぜひ、できる範囲で募金にご協力ください。問い合わせは、みやぎ生協専務理事スタッフ・五十嵐桂樹さん（022-771-1590）まで。

・ふれあい喫茶で使用する、お菓子（各地の名産品など）を募集しています。連絡先は、みやぎ生協ボランティアセンター（022-218-3880）まで。

○食のみやぎ復興ネットワーク：「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト・わかめ収穫用コンテナを、「JA いしのまき」に海水淡水化装置、いちごの出荷作業用のスーパーハウス（幅 2.3m、長さ 5.4m、高さ 2.6m 程度の大きさ）を贈るため、上記物品、あるいは、支援金を募集。連絡先は、みやぎ生協　藤田 孝さん（022-772-6141）まで。 新着

○福島県生協連：「福島の子ども保養プロジェクト」の①スタッフ、② 大型連休の保養受け入れ先募集。①は、1 カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画（日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等）を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連 根本 喜代江さん（024-522-5334）まで。

（保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください。）

本号外部取材スタッフ：荒川和巳、桐生広人、筑波君枝、野口武、早坂恵美、前川太一郎

本誌を含め、バックナンバーは日本生協連 HP「復興支援ポータルサイト」（ URL：www.shinsai.jccu.coop/ ）にてご覧いただけます。

つながろう CO·OPアクション情報（次回 9 月 26 日発行予定）
発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)
〒 150-8913 東京都渋谷区渋谷3 ― 29 ― 8 コーププラザ11F Tel:03-5778-8183/ Fax:03-5778-8051 action@coop-book.jp

2012 国際協同組合年